

対談

未来を予測する最前線



気象予報士、「スーパー」チャンネル」お天気キャスター **今村 涼子さん**
 水資源機構 副理事長 **岩村 和平**

◆近未来が予測できる気象予報士の魅力

岩村 今回は、気象予報士で、キャスターとしても活躍されている今村涼子さんにおいで頂きました。我々、水資源機構にとって気象情報はダムなどを管理する上での羅針盤のようなものなので、かなり近いフィールドでの仕事ではないかなと思うのですが、今村さんが気象予報士になろうと思われたきっかけは何なのか。

今村 私は、小さい頃、いわゆる雨女でした。小学校の遠足とか運動会とか、楽しみにしているイベントが度々雨で流れてしまったり、そんな思い出がたくさんありました。それで、大学生の時に気象予報

士の資格が出来るということを知り、おもしろそうだなと思ったのもそうなのですが、自分で未来を知る術を手に入れることが出来れば、これはいいなって思ったんです。

岩村 今日の雨は気象現象としての結果であって、自分のせいではないと確信できるとか、天候を考えながら計画的に動けるようになるとか、・・・。

今村 そうそう。気象予報士になって良かったと思うことはたくさんありますが、例えば、2010年の夏は大変な猛暑でしたよね。あの時、太平洋高気圧やチベット高気圧の動きなどから、相当な暑さが来そうだと2、3週間前から予測できたんです。それで古くなっていたエアコンを早めに買い替えることにしたのですが、これが大正解。猛暑となってから

は、エアコンの売り切れが続出して大変なことになりました。苦勞された方々には大変申し訳ないのですが、気象の知識があって少し先読みが出来、本当に良かったなと思いましたね（笑）。

岩村 気象予報士としての1日の仕事は、どんなスケジュールで動くのですか。

今村 テレビ局に入るのが午前11時位。午前中に配される天気図を確認して、前日の予想から当日までの変化やズレを確認しつつ、明日の予報を、まずはざっくりと組み立てます。午後には、また新しい天気図や情報が続々と入りますから、その都度更新し修正します。午後3時以降は休みなしの状態です。

岩村 今回の対談のこともあって、先日、気象予報関係の資料を少し買って読んだのですが、いやいや難しいですね。湿度の高い空気は湿度の低い空気より軽いから上昇して、冷却されてとか言われても、・・・という感じでした。

今村 私は文系で、大学では体育学を専攻していました。それで、理論や理屈を積み上げるというより、とにかくまずは全部丸暗記して、ガツンと覚えて、実践的に試験に挑みました。初めは働きながらの受験でしたが、これでは駄目だと思い、仕事を辞めて1年間しっかり勉強したんです。幸い合格でき、この世界で仕事をしてきていますが、最近の気象はなかなか激しく、予報も難しいものが増えているように思います。日々、勉強ですね。

◆激しさを増している最近の気象

岩村 最近、観測史上初と言われるような激しい気象現象がしばしば起きていますよね。

今村 私は気象キャスターを始めて今年で10年目になるのですが、最初の年の平成16年（2004）は台風が10個も日本に上陸しました。その後も、

毎年、激しい気象現象が頻繁に起きるようになっていく気がします。温暖化とか異常気象に関心が集まるようになっていきますね。

昨年8月には高知県の四万十市^{しまんとし}で41℃という最高気温が出ましたし、10月15、16日には伊豆大島に台風26号が上陸して大変な被害を引き起こしてしまいました。大雨の場合には、最大でこれ位降るだろうという予測の幅があるのですが、最近予想の上限を超えてしまうことがしばしば起こるようになっていきます。

岩村 台風26号の時は水資源機構としても大変でした。千葉県^{いんばぬま}の印旛沼に水資源機構の排水ポンプ場があるのですが、フル稼働して沼のポケットの3倍もの水を汲み出しました。それでも、沼はこれまでの最高水位となり、堤に土嚢積みまでしてかろうじて乗り切りました。

今村 これまでの警報基準を超えるような事態が発生するようになってきたので、昨年から大雨特別警報というものが出来、昨年9月には、京都府や福井県などで第一号が発令されましたよね。あの時



プロフィール：今村涼子さん

気象予報士。「スーパー」チャンネルお天気キャスター。奈良県出身。99年に気象予報士に合格。その後、テレビ朝日などいくつかの放送局で気象予報番組を担当。2005年4月から「スーパー」チャンネルのお天気コーナーを担当。気象キャスターネットワーク所属。ダムファンでもあり、ダムカードの収集家でもある。

は、嵐山の渡月橋あたりの洪水映像なども随分流れました。大変だったのではないですか。

岩村 台風 18 号ですね。あの桂川の上流には水資源機構の日吉ダムがあるのですが、流域では記録的な雨となりました。流入量も過去最大となり、その 9 割をダムに貯め込んで下流への放流を抑え、台風が通り過ぎるまで凌ぎました。嵐山やその下流地域の洪水被害を相当軽減することが出来たと評価されています。こういった洪水の時には、的確な判断と確実な操作が特に重要ですから、ほとんど気象情報を首っ引きで見えています。

今村 私達も大雨の時には、10 分毎に気象レーダーなどを継続して確認しています。なんだかすごく近い仕事ですね。

◆気象予報の難しさと醍醐味

岩村 局地的な気象現象もなかなか激しいものがあり、例えば、南岸低気圧の移動の微妙な位置関係や寒気の入り込みによる局地的な雷雨など、予測が大変難しいのではないかと思います。

今村 そうですね。天気予報は当たって当たり前、外れると怒られます。気象キャスターは一般の生活者向けに情報を出すので、「降らない」と予想して降った場合の苦情は多く、「降るかも」と言って降らなかったら、「ラッキー」と思ってくれる人が多いのです。2 月の大雪の時も、南岸低気圧の動きで事態は大きく変わるので予報が大変難しかったですね。

岩村 地球温暖化と言われているのに、結構寒い冬でしたし、記録的な大雪にもなると思われる方も多いのではないですか。

今村 数年単位で見ると確かに寒い冬があり、最近続いているのですが、少し長いスパンで見えていく



TV局で気象予報の準備をする今村さん

と、次第に冬も暖くなる傾向にあると思います。温暖化で北極海の氷が少なくなってきたり、これが影響してジェット気流が偏ったりして、日本周辺に寒気を引き込みやすくなっていると言われていいます。大きく振れながらですが、それでも次第に温暖化は進んでいるのでしょうか。

岩村 予報を見ていると、気象予報士の方ごとに個性が出るというか、予報に微妙な差が出ているように思います。「よし、当たった!」と思うのはどんな時ですか。

今村 予想とピッタリの時間に雨が降り出した時には、本当に「よし!」という感じです。しかも、「明日は雷雨になる」とか、「天気の急変に注意」などという時には、天気コーナーを含めた番組全体が、その時の雷雨を撮ろうと動き出し、私の一言で翌日の番組のニュース項目が決まってしまうことがあります。そうすると本当に責任重大で、「この時間にどこにカメラを持って行けば稲妻が撮れるのか」と問われることになります。データをにらみ、「たぶん、このあたり。この時間になれば、この周辺で雷雲が湧いてくるはず」などと予想すると、当たり前のことですが、本当にカメラ・クルーがそう動き出してしまいます。その時は、しっかり撮れましたので、「よしっ!」と感じました。

岩村 いやー、胃が痛みそうですね。

今村 温暖化の影響で気象が読みにくくなってい

る状況がありますが、水資源機構の仕事も難しくなっている面があるのではないですか。

岩村 そうですね。洪水時の防災対応は失敗が許されないので、時に緊迫したものになります。気象データの精度向上、スピードアップがあって随分助けられていると思います。用水供給も、気象の偏りで渇水傾向になっていると感じます。また、山に蓄えられた積雪の溶け出しが早くなる傾向があって、一番水が必要になる田植えの時期とずれてしまうことで、この先、大きな問題になるかも知れません。もう一つ、新しい動きとして水温のことがあります。昔は、ダムに貯めた水は冷たいから生育障害になると言われ、表面の温かい水から取っていたのですが、最近では、夏期の気温が高いために米の高温障害しろみじゅくりゆう（白未熟粒）が多発しており、夏場にはむしろ水温の低い水を要請されることがあります。

◆各地で発生した昨年の渇水

岩村 水資源機構の施設はどこかご覧になったことがありますか。

今村 3年前、矢木沢やぎさわダムを見に行きました。当初、点検放流が計画されていたのですが、貯水量が不足気味で出来なくなったということでした。確か、過去3年間、点検放流が実施されていないと思うんですが、今年はどうなのでしょう。私も含めて、ダムファンには人気があるんですよ。あのレース模様のように見える奈良俣ならまたダムなどの放水もきれいですが、矢木沢ダムの放流施設はちょっと変わった形式ですから、豪快らしいですね。

岩村 昨年、一昨年と利根川水系は渇水でしたので、点検放流が出来ませんでした。今年は幸いほぼ満水まで来ているので、実施できると思います。予定が決まりましたら、お知らせしますので是非ご覧になって下さい。（点検放流は5月18日に実施され、今村さん出演の番組でもご紹介頂きました。）

今村 昨年は、全国的に渇水傾向でしたよね。温暖化の影響か、ゲリラ豪雨といった局地的な豪雨の一方で、渇水も増えているように思います。

岩村 昨年は、利根川のほか、豊川、吉野川、筑後川などで渇水となりました。利根川は2年続けての



気象予報番組に出演する今村さん



錦秋の矢木沢ダム

渇水でしたし、豊川は特に厳しく、水源のダムがほぼ枯渇する事態となりました。水道は約3割、農業用水は4割の節水をしてもらわざるを得なかったんです。雨は、降る時と降らない時があり、また降る場所と降らない場所がありますから、必要な時に必要な量を必要な場所へ供給するために、大雨の時にダムに貯めておいて必要な時に水路で運ぶ訳です。しかし、天候の偏りが激しくなると対応が益々厳しくなってくる恐れもありますね。

今村 去年は、私達もテレビで「節水しましょう」としばしば呼びかけたりしていたのですが、どれ程効果があるのかと気になったりもします。

岩村 節水の意識の積み重ねというのは大事なことだと思いますが、それでも仮に3割の取水制限となると水道の圧力を下げなければならなくなり、高台などで水が出にくくなるとか影響は大きくなります。かつて、前回の東京オリンピックが開催された直前頃には東京は大渇水となり、給水車が走り回る



事態となったんですね。

◆気象情報に敏感になって身を守る気持ちを

岩村 激しい気象が発生しやすくなると、気象予報と防災との関わりは益々強くなりますね。

今村 最近は、ゲリラ豪雨のように急に街なかで積乱雲が湧いて、激しい雨が降ってしまうことが結構あります。テレビの天気予報は決まった時間に限られた枠の中で話すことになるので、情報発信にも限界があります。皆さんが、受け身ではなく能動的に情報を取るようになって頂けたらと思います。テレビ等で危険性を伝える報道を見聞きしたら、積極的に気象情報と関わるようにして欲しいですね。

岩村 我々も情報周知には神経を使っています。豪雨の時には洪水をダムに可能な限り貯め込んで下流での被害を抑えるようにするのですが、洪水時に貯め込める容量を増やすために事前に放流をしておくことがあります。そんな時は、下流のあちこちに設置してある警報を鳴らすほか、車で巡回して回るとかして、安全を確保します。

気象災害に関わる警報は以前よりも迅速に出されるようになってきていると思いますが、避難勧告が出ても「またか」という感じで対応されない方も多いたとも聞きますが。

今村 そこがちょっと難しいところです。防災という観点からは、命を守るということが前提となりますので、危ないと予想される時は、「最悪、こういう事態が起こりますよ」と、少し厳しい方（安全側）に情報発信し意識してもらおうようにしています。

2年前の5月には、つくば市で大きな竜巻が起こりました。5月は地上の空気は温まっても、上空に寒気が鋭く入ってきたりすることがあって、そのパターンの時には、最悪の場合、竜巻が起こる場

合があります。そのような状況の時は、過去の災害を例に出し、最悪の事態を伝えるようにします。たぶん大丈夫だろうと軽く考えて、災害に巻き込まれることがないようにして欲しいですね。

◆水資源と気象、近い領域同士で連携を

今村 お話を伺っていると、ダムなどの施設の管理は、船の船長さんみたいなイメージですね。その船に多くの住民の方々が乗っていて、どう操縦するかといったような。水資源機構には、気象予報専門の方はいるのですか。

岩村 気象予報士の資格を持っている人は5名いて、更に取得するよう奨励していますが、彼らが専ら気象予報をする訳ではありません。施設管理をしている全ての職員が気象に強い関心を持ち、頻繁に気象情報をチェックし、担当の施設がある地域の気象特性も覚えて、的確な判断と操作が出来るようにしています。降雨データを流出量に換算するプログラムも独自に改良を重ねたりするなど、技術開発もやっています。

水資源機構の職員は現場に限らず、恐らくほとんどが気象情報にかなりの思い入れがあり、通常の日でも、かなりの頻度でチェックしていると思いますよ。総じて心配症ですし、万一こうなったらどうするか習慣として考えています。

今村 気象予報士と水資源機構の方とは行動パターンが似ているというか、共通するところが多いですね。私達もプライベートでお花見とかに行ったりしますが、常にレーダーを見てしまうとか、お天気の話が多くなります。近い領域同士、飲み会でもしたら盛り上がりそうですね(笑)。

岩村 本当に似たところがありますね。我々も、水資源とこれに関わる色々なことに関心を持ってもら



おうと情報発信や地域活動などの広報活動を行っているのですが、こういったことで連携させて頂けると良いなと思います。

今村 私達も、気象予報の中で気象に関わる様々な情報を提供しています。気象は暮らしや文化に関わることでですからね。また、気象キャスターネットワークというNPOに所属しており、小学校などへ出前授業をしたりもしています。水に関わる四季折々の情報などを全国のキャスターに流せるように出来れば、大変ありがたいですね。

岩村 8月1日は「水の日」、それから1週間は「水の週間」ということで、その時期には様々なイベントが開催されます。今年は、水循環基本法という法律が出来、「水の日」も法律に基づくものになりましたから、例年以上に活発なものになると思います。こういう機会に、水の循環を意識し水を守っていく、それから気象情報にも益々関心を持ってもらうという雰囲気が作っていかれたらと思います。

今村 これから、ダムの状況を伝える時などは、皆さんの努力が伝わるようなコメントもなるべく出していきたいと思います。

岩村 これを機に、連携していきましょう。引き続きよろしく願います。本日は、どうもありがとうございました。

今村 いい機会で、楽しかったです。ありがとうございました。